

空の旅を終え北海道の里親・幡手さん一家に抱き上げられる「お母さん」
—新千歳空港で8日午後3時20分ごろ



H6.5/9

香川で「不用犬箱」に捨てられた母犬

空運して北海道にヨメ入

香川県坂出市の不用犬

母さん——。

箱に捨てられていた母犬が八日、動物愛護団体の橋渡しで、約一三〇〇キロ離れた北海道石狩管内当別町の会社員宅に引き取られた。犬の名前は「お

母さん」。この犬は雑種で、昨年九月十二日、坂出市松山に置かれた不用犬箱に子犬七匹と一緒に捨てられているのを動物愛護団体・香川犬猫ネットワーク

代表の鷺谷直子さん（四〇）＝同県綾歌郡国分寺町＝が保護。子犬はすぐにもらわれたが、「お母さん」と名付けられた母犬はもらい手がつかず、鷺谷さん方で飼われていた。

鷺谷さんから話を聞いた北海道動物保護協会（平井百合子会長）が今年一月、札幌市で犬猫の里親探しのパネル展を開催。当別町太美町の主婦、幡手利枝さん（五三）と長女

聖美さん（三）が飼うことをその場で決意。冬の北海道の厳しい寒さはこたえるだろうと、春まで運送を待っていた。

気温二八度の高松空港で同ネットワークの主婦十人に見送られた「お母さん」は八日午後、新千歳空港で幡手さん一家と対面した。

鷺谷さんは「人間の身勝手生き物の命を粗末にしないでほしい」と話している。